



とくしま 空き家 スタイル

空き家活用のススメ



自然の宝庫「とくしま」

徳島県は、四国の東部に位置し、雄大で豊かな水量を誇る四国三郎吉野川、豪快な鳴門の渦潮、穏やかな瀬戸内海と黒潮寄せる太平洋を併せ持つ海岸線、急峻で緑深き山岳地帯など、自然の宝庫ともいえる環境の中にあります。この豊かな自然は海の幸、山の幸を育み、新鮮で安全・安心を誇る豊富な食材を私たちの手元に届けてくれます。



徳島へのアクセス

| 自動車 | JR |
|---|--------------------------------|
| 高松→鳴門IC(高松自動車道) → 約1時間 → 徳島市街 | 岡山駅 → 約2時間20分(特急) → JR徳島駅 |
| 松山→徳島IC(徳島自動車道) → 約3時間 → 徳島市街 | 高松駅 → 約1時間10分(特急) → JR徳島駅 |
| 高知→徳島IC(徳島自動車道) → 約2時間30分 → 徳島市街 | 阿波池田駅 → 約1時間10分(特急) → JR徳島駅 |
| 神戸→鳴門IC(神戸淡路鳴門自動車道) → 約1時間40分 → 徳島市街 | 牟岐駅 → 約1時間8分(特急) → JR徳島駅 |
| 高速バス | 飛行機 |
| 東京→高速鳴門→松茂 → 約9時間20分 → JR徳島駅 | 東京(羽田空港) → 約1時間10分 → 徳島阿波おどり空港 |
| 京都駅→高速鳴門→松茂 → 約2時間50分 → JR徳島駅 | 福岡空港 → 約1時間15分 → 徳島阿波おどり空港 |
| 難波→飯急三番街・ハビス大阪→高速鳴門→松茂 → 約3時間 → JR徳島駅 | 札幌(新千歳空港) → 約2時間5分 → 徳島阿波おどり空港 |
| 神戸三宮駅→高速舞子→高速鳴門→松茂 → 約1時間50分 → JR徳島駅 | フェリー |
| 高松駅 → 約1時間30分 → JR徳島駅 | 和歌山港 → 約2時間 → 徳島港 |
| 松山市駅(下りは市駅経由松山駅着) → 約3時間10分 → JR徳島駅 | 東京(有明港) → 約18時間20分 → 徳島港 |
| 高知駅 → 約2時間40分 → JR徳島駅 | 北九州(新門司港) → 約14時間20分 → 徳島港 |
| 倉敷→岡山駅前→大内→鳴門西→鳴門インター→北口→松茂 → 約3時間20分 → JR徳島駅 | |
| 広島バスセンター→中筋駅→鳴門西→松茂 → 約4時間 → JR徳島駅 | |

広がる移住・交流の輪

生活スタイルや価値観の多様化が進み、都会での生活よりも「自然に囲まれた地域で生活したい」と考える方が増えています。徳島県は、豊かな自然や阿波おどりに代表される類い希な伝統文化をはじめ、新鮮で安全・安心を誇る豊富な食材など、大都市圏の方々がうらやむ数多くの魅力に満ちたところです。そして、全国屈指の光ブロードバンドにより、現代人の生活には不可欠となったインターネットについても、良好な環境が整っています。現在、こうした環境に着目し、「地方創生」のモデルとして全国はもとより海外からも注目を集める「サテライトオフィス」をはじめ、山里での起業、一次産業への従事など、地域との温かい交流のもと、多くの方が新しい働き方、希望のライフスタイルを実現されています。



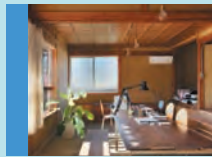


住宅ストックの宝庫 「とくしま」

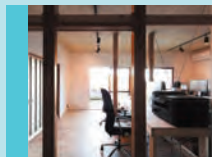
これはあまり知られていないことかも知れませんが、徳島県には、空き家がたくさんあります。「平成 25 年住宅・土地統計調査」をもとに、徳島県の空き家の状況を見てみると、空き家の総数は 64,000 戸、空き家率は 17.5%と全国平均の 13.5%を上回り、その順位は全国第 5 位となっています。利用予定のない空き家は 36,000 戸、空き家率は 9.9%と全国平均の 5.3%を大きく上回り、その順位も全国第 4 位となっています。空き家という、聞こえが良くないかも知れませんが、中には老朽化が進み、除却を必要としているような空き家もあります。しかし、多くの空き家は少し手を加えるだけで、十分に利用可能なものです。つまり、徳島県には活用可能な住宅ストックがたくさんあるということなのです。



p3 …… 出羽島
波止の家
(交流施設)



p5 …… 佐那河内村
佐那河内の家 1
(事務所 + 住居)



p7 …… 佐那河内村
佐那河内の家 2
(事務所)



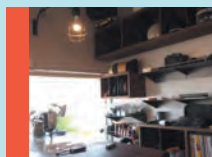
p9 …… 神山町
Cafe Brompton Depo
(店舗)



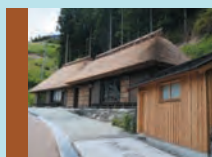
p11 …… 神山町
モノサス
神山サテライトオフィス



p13 …… 鳴門市
鳴門ハウス (住居)



p15 …… 鳴門市
RIDE BAG
(工房兼店舗兼住宅)



p17 …… 三好市
晴耕雨読
(宿泊施設)

空き家活用のススメ

このような新しい働き方や希望のライフスタイルの場を提供しているのが空き家です。空き家は自然に恵まれた農山村や漁村、歴史や文化が息づく伝統的なまちなみの中など県内各地にあり、その形態も茅葺き民家などの農家住宅や重厚な造りの町屋、開放的な造りの漁村集落の住まいなど、多様なものとなっています。利用方法も多様で、この事例集で紹介しているように、住まいとしてだけでなく、店舗や事務所を併用したもの、地域住民と来訪者の交流施設、宿泊施

設など、移住や交流を進めるなかで生まれる地域のニーズに対応したものとなっています。福沢諭吉は「学問のすすめ」で「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」と語っていますが、私たちの「空き家活用のススメ」は「家は人の無くて家にならず人とともに地域を育てる」と考えます。利用されなくなった空き家は、所有者にとっての負担となるだけでなく、放置すると周囲の生活環境や景観などを悪くするおそれもあります。一方、移住や交流などの舞台として活用することを考えると、地域に欠かせない貴重な住宅ストックとなります。徳島県では「とくし

ま帰帰住宅対策総合支援センター」を2016年1月に開設し、全国初となる「とくしま地方創生空き家判定士」の登録制度を導入するなど、専門的な相談・バックアップ体制が充実しています。空き家の対策でお悩みの方、移住・交流に関心のある方、私たちと一緒に「空き家活用のススメ」を始めませんか。





写真提供: 幸田青彦

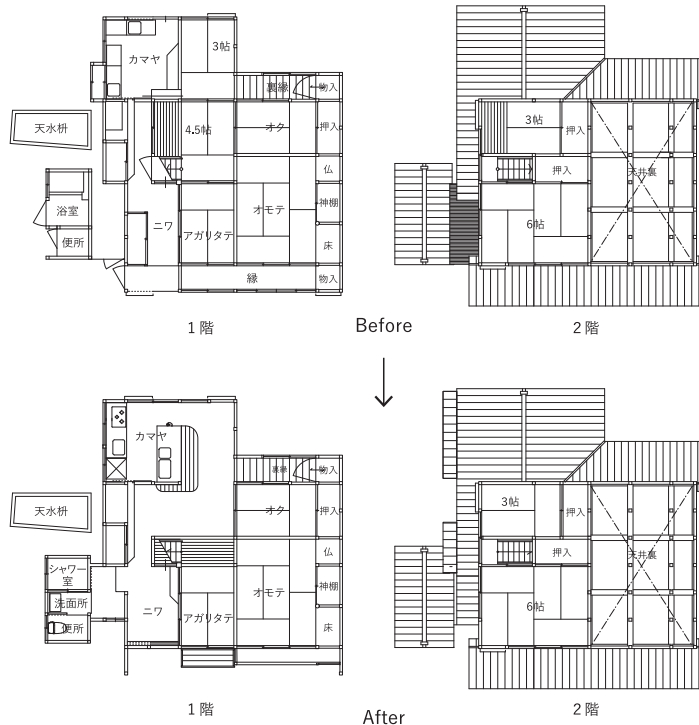
波止の家

所在地 海部郡牟岐町牟岐浦出羽島
床面積 98.74㎡

海の見える地域の交流拠点

波止の家は、出羽島重要伝統的建造物群保存地区の内海に面した一角にあります。昭和13年(1938)の建築で、永く空き家だったものを牟岐町が取得し、保存修理を行い、交流施設として活用されています。主屋と浴室棟の廻りには差し掛けが設けられ、当初、土庇(外部に開放された下屋)だった正面も内部化されるなど、外観は大きく変わっていました。痕跡調査の結果、正面の土庇は、床几(しょうぎ)と部戸(しとみど)からなる「ミセ構え」と出格子を備える出羽島の典型的な外観を有することが分かり、格子の意匠などは他の事例を参考にしながら当初の姿に復原しました。トタン張りの外壁も、板張りの当初の形に

なっています。内部は当初の空間構成を基本にしてはいますが、交流施設とすることから、カマヤ部分に対面式の厨房設備を設け、カウンター廻りに交流の場が生まれるよう、ドマ部分を広くしています。また、オモテとオクの天井は取り除き、小屋組が見える吹き抜けとしました。一度外に出なければ利用できなかった浴室棟は、主屋から直接利用できるようにして、便所と洗面所、シャワー室を設けています。完成直後から、地元の人達と来訪者によって様々なイベントなどが開催され、地域の交流拠点として活用されています。





関係者のお話

波止の家は、出羽島の伝統的建造物群保存地区選定よりも一足先に整備された交流施設です。計画づくりの段階で、地元の住民の方々や、牟岐町を中心に、“ひと”と“ひと”をつむぐことで、教育やまちづくりの支援を行う「NPO法人ひとつむぎ」に所属する学生さんなどが参加者となったワークショップが開かれました。ワークショップの目的は、出羽港の目の前にある空き家の活用方策を検討することで、島民と学生たちの交流の中から生まれたアイデアは、みんなが気軽に集まっておしゃべりができたり、お茶や食事を楽しむことができたりする、「交流の拠点」でした。工事中も土壁ワークショップが行われたり、竣工後は様々なイベントに利用されたりと、波止の家を介した交流の輪は広がりつつあります。今後、この輪が島全体に広がってくれることを期待しています。

牟岐町教育委員会 川辺洋二さん



佐那河内の家 1

所在地 名東郡佐那河内村

床面積 1階95.13㎡ 2階34.27㎡ 合計129.40㎡

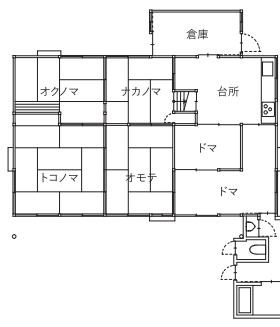
みんなで作り上げた仕事と暮らしの場

この住宅は佐那河内村の国道沿いに建っていて、道の向こう側には川、畑、田んぼ、山が目の前に広がっています。空き家になって1年あまり経っていましたが、建築士、地元の大工・職人、地域住民によって改修され、現在は事務所兼住宅として活用されています。

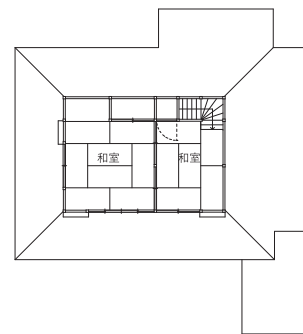
改修のポイントは耐震性を向上させることと、築100年の古民家に事務所と住宅という二つの用途をどう実現させるかでした。耐震性を向上させるためには、限界耐力計算による補強計画を立て、必要な箇所に荒壁パネルによる補強を行いました。間取りは基本的には当初のものを大きく変えることなく、事務所と住宅の二つの用途を

うまく実現することができました。

事務所部分は既存の床を取り除いて、地域の土を使った三和土土間としています。床の高さを低くしたことで目の前の景色を眺めながら仕事ができるようになりました。また、床を撤去した時にた板を壁や建具に再利用しています。三和土土間の施工には多くの地元住民、学生も参加してくれました。移住者も自ら漆喰を塗ったり、また住民には解体、床張りなどいろいろな工事を手伝ってもらい、職人だけでなく、地域の人達も巻き込んでみんなで作り上げた家になりました。

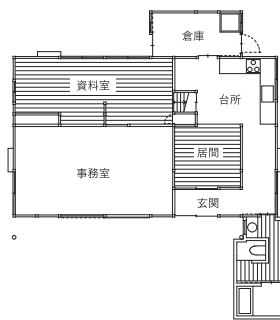


1階

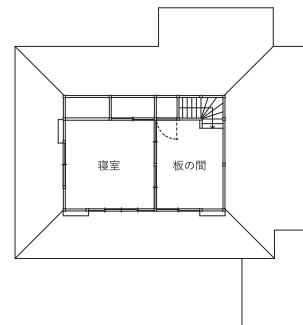


2階

Before

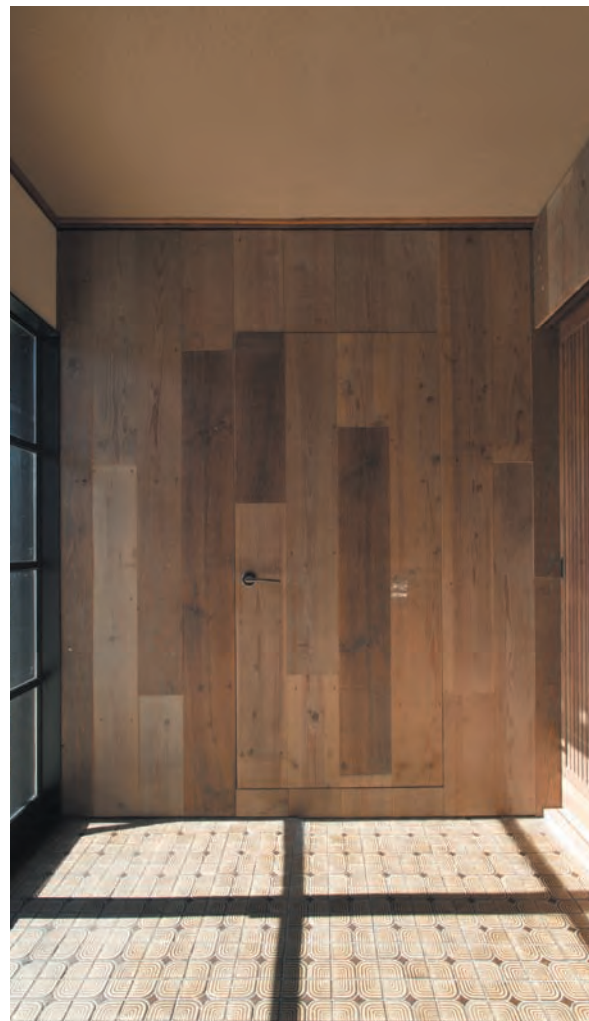


1階



2階

After



関係者のお話

自分たちの村からどんどん人が減っていき、空き家が増えていく状況を目の当たりにしながら、「どうにかしないと」毎日考えていました。そんなとき、佐那河内村には移住希望者が多いということを知りました。空き家の持ち主からすると、知らない人に貸すのはちょっと…という方がたくさんいまして、なかなか移住が進まない、そんな状況でした。そこで私たち地元の若手が移住者と空き家の持ち主の間に入って、空き家活用のサポートをしようと「ねごう再生家」という団体を立ち上げました。この家も私たちが間に入ることで、空き家の持ち主、移住者、地域の職人、住人をつないで、スムーズに空き家の活用ができるようになりました。今まで、電気がついていなかった家に灯りがついているのを見ると、やはりうれしいものです。

ねごう再生家代表 伊藤武弘さん



佐那河内の家 2

所在地 名東郡佐那河内村
 床面積 1階52.88㎡(改修部31.82㎡) 2階45.16㎡(20.01㎡)
 合計98.04㎡(51.83㎡)

見晴らしの良い仕事場

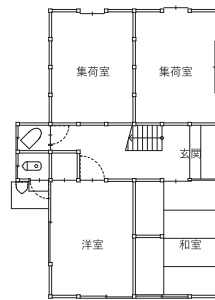
徳島県の郊外には、ひとつの大きな敷地の中にいくつか建物が建っている場合があります。この敷地にも母屋、離れが二棟、蔵、倉庫が建っていました。幸い、離れのひとつが改修することなく生活できる状態だったので、そこを生活の拠点とし、もうひとつの離れを仕事場に改修しました。少し標高の高いところにあって、村を見渡せるこの場所で移住者は地域に関わる仕事をしています。

改修した建物の半分は農作物の収納庫になっていて、残りの半分が居住部分でした。今回の工事では収納庫部分はそのままとし、残りの部分に手を加えて仕事場にしました。洋室と和室の間仕切りを取り除いて、

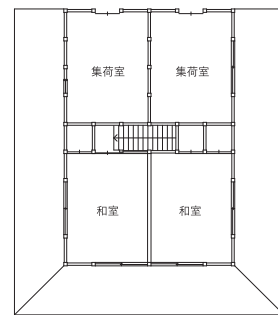
ひとつの空間にしました。休憩場所となっている2階は、仕上げを一新しました。床を畳から杉板に張り替え、壁も塗り直し、低かった既存の天井も撤去し、屋根の勾配にあわせて高く張り直しています。

移住者も解体、床張りなどできるところはDIYで工事に参加しました。

将来的には母屋にも手をいれて、スタジオや交流できる場所に改修することを見据えています。

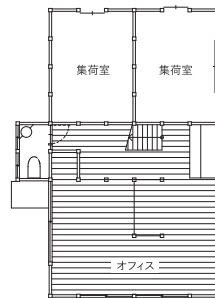


1階

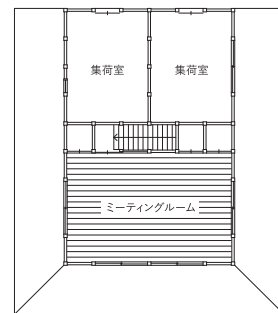


2階

Before



1階



2階

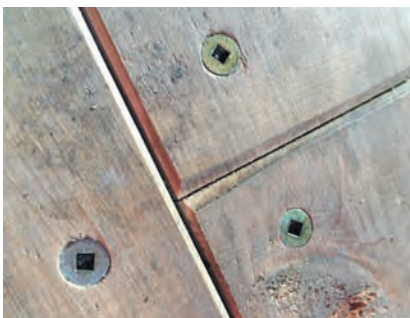
After



関係者のお話

この場所で仕事するようになって1年あまり経ちますが、山の上から景色を眺めながら仕事をするのはとても気持ちがいいです。東京で Web や映像、デザインの仕事をしていたが、故郷の徳島で、のびのびとした環境で仕事をしようとの空き家を紹介してもらいました。建築士の方に調査していただいて、耐震化工事もしていますので安心して仕事ができます。自分で解体工事や床を張ったりしましたが、想像していた以上に大変ではあったものの、とても楽しい体験ができました。すべて職人さんにお任せするより、ちょっと失敗しても自分がつくったところは愛着があります（笑）。今は地域の方たちから仕事を頼んでいただくことも多くなりました。自分の持っている技術で地域の農家の方の手助けができるのはとてもうれしく、忙しいですが充実した毎日を過ごしています。

利用者・Web、映像作家さん



Cafe Brompton Depo

所在地 名西郡神山町上分字中津

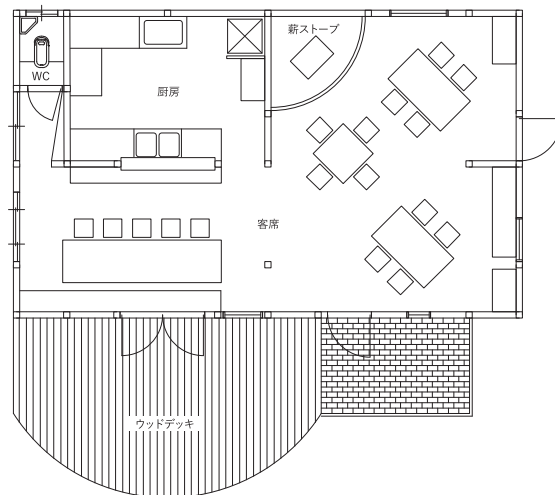
ブロンプトンに乗って自然も楽しめるカフェ

Cafe Brompton Depo は、イギリス生まれの折りたたみ自転車「ブロンプトン」をレンタルして神山町の自然を楽しむことができるカフェです。周辺には、「神通滝」「神通蠟梅園」「江田の菜の花」などがあります。サイクリングのほかに、河原であそんだり、のんびりと散歩やお茶をしながら自然を満喫できます。

長年使われていなかったクラフトショップを「屋根の色塗りからはじめようか」とスタートした改修は、店主の息子さんとその友人らで手を加えながら、屋根とエントランスドアの赤色がアクセントとなって生まれ変わりました。ログハウス調だった外観も、黒と白を基調とした塗装に塗り直して印象を変

えています。内部の壁塗りには地元や町役場の人も参加。

ユニークな円形のウッドデッキや薪ストーブ置き場は、ものづくりが好きなつくり手たちによるアイデアです。桧の床板張りには、四角穴ビスを使うという小さなこだわりも。テーブルは、以前製材所だった店主の家で挽いていた木材を使って製作されています。



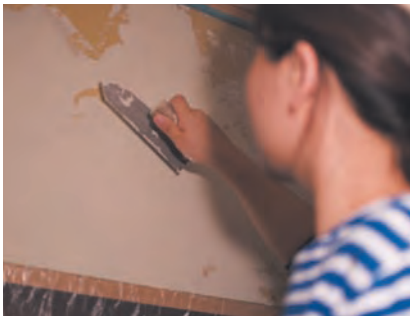
After



関係者のお話

これまで、自分の育ってきた田舎のよさが分からなかったけど、みんなは「ここいいね」と言ってくれます。そうやってこのよさに気がついて、建物があるのに使っていないのは惜しいし、地元の人がちょっとコーヒーに寄ってくれるところに行けるといいかなと思っていました。まさかこんなに人が来てくれるとは。場所ができればみんなが寄って来てくれて、これまで接点のなかった世代の違う地元の若い人も話をする機会ができました。自然いっばいで、開発できていないところがよいこの場所をみんなに見てもらいたいです。神山の一番奥やけど、一休みに、癒しに来てもらえたら。

Cafe Brompton Depo 大門正江さん



モノサス

神山サテライトオフィス

所在地 名西郡神山町神領字北
床面積 75.44㎡

人とつながるサテライトオフィス

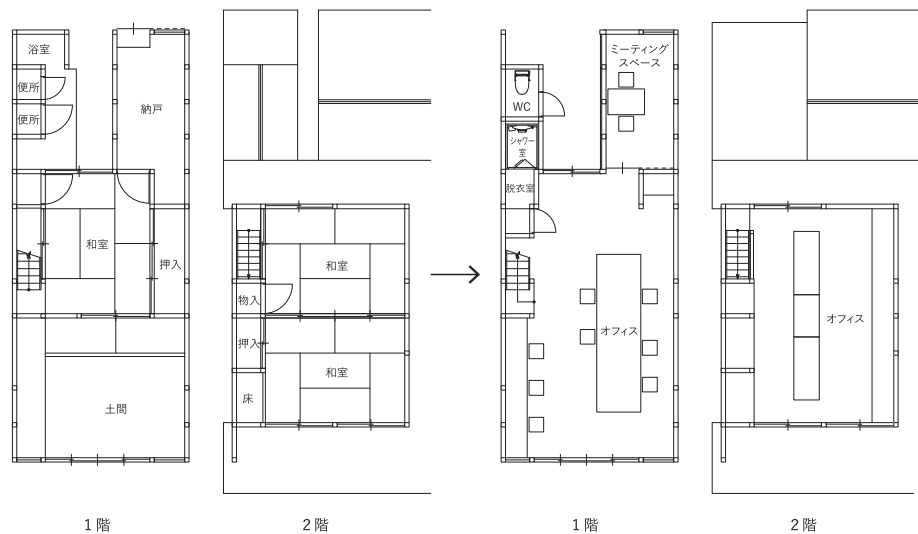
神山町神領の寄井商店街にある4軒長屋の1軒が、サテライトオフィスとして改装され、活用されています。周辺には、文化的な施設や商店が並び、空き家だった1軒に人の気配が戻りました。

道路に面した外観はまちなみの風景を損なわないよう維持され、既存の開口部からは中の様子が伺えます。地元の方との交流を深められるよう、1階は、長屋の特徴を活かした裏庭まで抜ける土間続きの作業スペースに。商店を通りかかる近所の方や知り合いがふらりと挨拶に立ち寄ってくれます。

長屋であることから隣の住戸との隔壁は防音性能を高め、シャワー室やトイレもあたら

しい使い方に合わせて一新しました。大事なところにはしっかりと大工さんの手が入りつつ、古材の建具や譲ってもらった照明器具を利用したり、壁はオフィスのスタッフやまちの人たちと漆喰を塗るなど、DIY も楽しんでいます。

2階は、神山杉の床板が張られた心地よい空間に。オフィスのテーブルも地域の杉材で製作しています。



Before

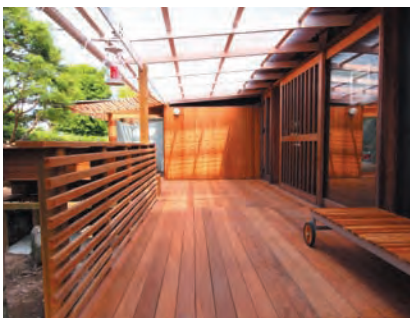
After



関係者のお話

自分たちも工事に携わることで、「あのときこうだった」「この壁はだれが塗った」と、建物の一つ一つに思い出ができました。おわって感じたのは、すべてをお願いしなくてよかったなど。作り上げていく過程に携われることで当初見えていなかったことが見え、その都度計画を変更させてもらいながら大工さんとつくっていくことができました。結果的に当初の計画よりも、より良いオフィスにすることができました。いざオフィスを始めるときも、作業スペースを2階にしようと思っていたけど、1階に全く人がいないのはどうなのかなと思って、急ぎ作業スペースを1階に変更したりしました。今は、地域の人もフランクに入ってきてくれてお喋りをしたり、スタッフもこの場所を気に入って生き生きと仕事をしています。

モノサス 栗原功さん



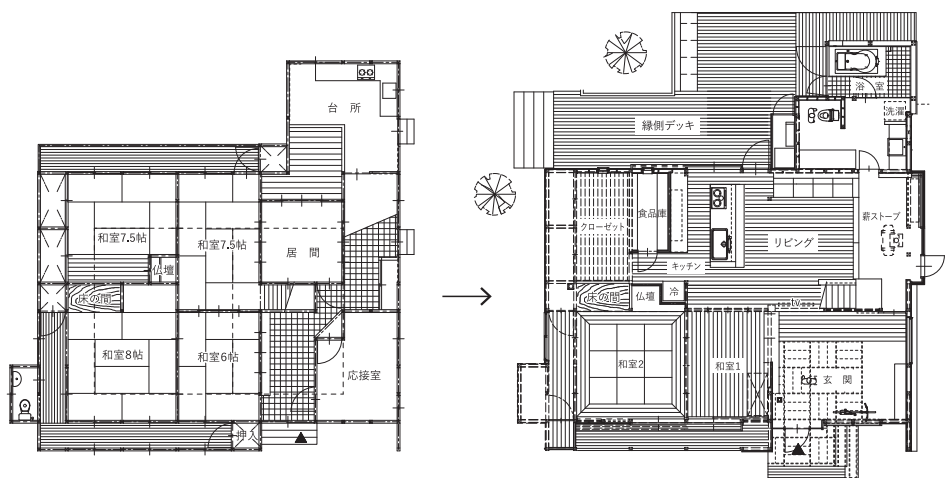
鳴門ハウス

所在地 鳴門市大麻町大谷
床面積 1階137.34㎡ 2階51.86㎡ 合計189.20㎡

光差し込むあたたかな居住スペース

鳴門市大谷地区は、「大谷焼」の陶芸の里として知られ、周囲にはれんこん畑が広がっています。改修した主屋は築110年の入母屋造り、農家型の屋敷構えをしているため、敷地は広く、主屋の周りには納屋や蔵が配置されています。当時の大工さんの手加工による梁は、とても大きくて、力強さを感じさせられます。玄関に入るとよく分かりますが、こうした大工さんの技を隠すのではなく、見せる空間に仕上げられています。北東の角にあった土間の台所は建物の中心部に配置し、リビングルームと一体の大きな空間にして、東側には薪ストーブを設けています。キッチンの北側のデッキテラスは浴室までつながり、夏は子

供たちの水遊びや、バーベキューに利用され、内と外の境界をできるだけなくす「場」になっています。古い家は「寒い」と思われがちですが、薪ストーブを中心に室内全体が温かくなるような仕組みを取り入れています。また、リフォームの際に、徳島県が推奨する耐震改修工事を行ったため、改修費用の一部が助成され、費用の負担も軽減されています。



Before(1階)

After(1階)

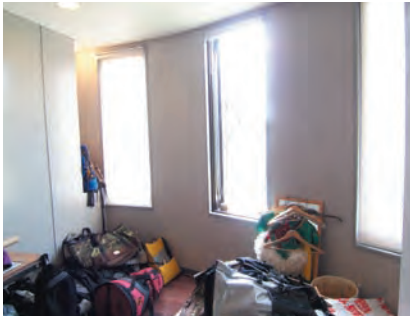


関係者のお話

薪割りからはじまる一日。

主屋の隣にある納屋は事務所兼作業場となっており、冬の間は仕事を始める前に、まずは薪割り作業を行い、体を温めるところから一日がはじまります。薪は近くの梨農家からいただけるので、冬場の光熱費はこの薪割り作業にかかっています。そのおかげで、夕方過ぎから焚き出した火は次の朝まで残っており、古い家ながら真冬にシャツ一枚で起床しても寒くありません。使用素材にもこだわっており、外壁は焼き板張り、内部には大谷石や土塗り壁といった自然素材を多く取入れています。

利用者・設計者



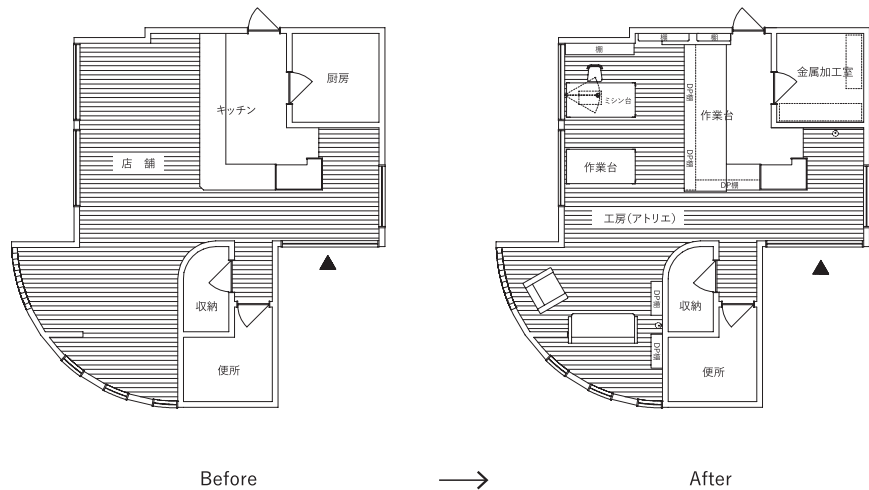
RIDE BAG

所在地 鳴門市鳴門町三ツ石
床面積 73.89㎡(改修部分)

おだやかな内海を望む鞆工房

海に囲まれた鳴門市高島地域にあるこの建物は、数年前までドックカフェとして利用されていました。周囲は、きれいな海岸や大きな公園、鳴門海峡など「海の自然」に恵まれた地域です。この場所を気に入った夫婦と愛犬が、東京から移住して来ました。建物の1階部分は鉄筋コンクリート造の店舗、2階部分は木造の住居という2階建ての混構造でした。改修したのは1階部分で、手加工のカバンをつくるための作業場と商品を飾るためのディスプレイスペースとしました。毎日座るミシンの前からは内海の眺望を楽しむことができます。その後ろには、木製の棚と鉄の棚を組み合わせた商品のパーツ棚が、作業手順に合わせて効率良

く配置されています。もともと中央部分にあったキッチンのカウンターを生かし、大きな裁断テーブルとし、その下に商品棚を設けるなど、空間を広く使えるように工夫されています。





関係者のお話

東京から移住してきた理由は、鳴門のロケーションと食べ物。
鳴門に住んでみて、いろいろなことが分かってきたと思います。もちろん海が好きで、このロケーションも大好きなのですが、人とのコミュニケーションの大切さであったり、家族のことであったり、仕事のことであったりと、いろいろなことがありますが、自分なりのスタイルがここにあるような気がします。

RIDE BAG 横山さん



晴耕外観



雨読外観



晴耕雨読

所在地 三好市東祖谷落合
床面積 晴耕 82.60㎡ 雨読 63.25㎡(浴室等を含む)

山里で茅葺き民家ステイが楽しめる宿泊施設

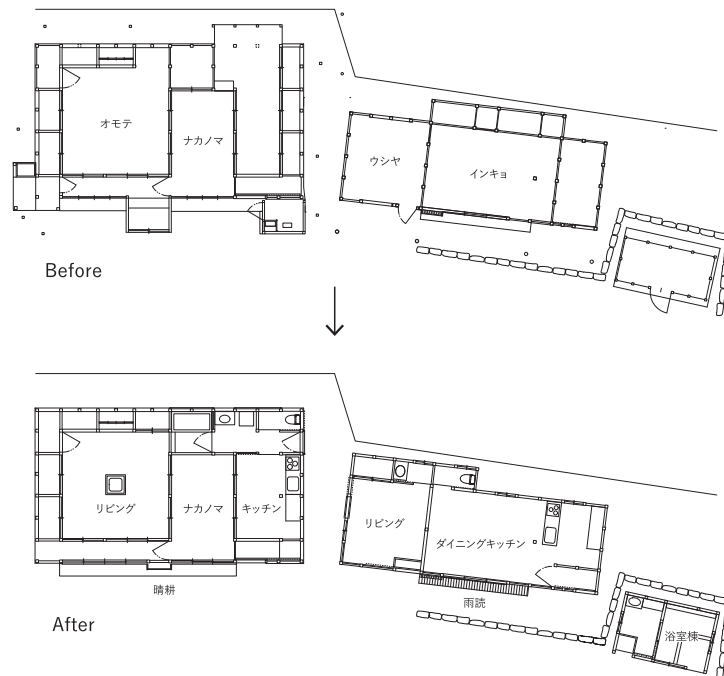
この施設は、三好市東祖谷山村落合重要伝統的建造物群保存地区の中程にあります。主屋と隠居屋、小さな小屋が一行に並ぶ、この地方の典型的な屋敷構えを残す民家です。永く空き家だったものを三好市が借り受け、保存修理を行った上、主屋を「晴耕」、隠居屋を「雨読」と名付け、宿泊施設として活用しています。

主屋、隠居屋とも茅葺きの屋根を組みかえて、勾配の緩いトタン葺きの屋根にする「小屋下げ」が行われていましたが、小屋組の痕跡を確認し、当初の姿である茅葺きに復原しています。トタン張りとなっていた外壁は、土壁を塗り、この地方独特の仕上げである真竹を貼した「ヒシャギ竹」で仕

上げました。

内部は、当初の空間構成を損なわないようにしつつ、キッチンや浴室、便所のアメニティに配慮しています。また、冬の寒さ対策として、外壁や床下には断熱材を施し、外部建具は雨戸+ペアガラス入りの框戸+障子と三重にするなど、機密性と断熱性を高めるとともに、床暖房を施しています。隠居屋には浴室を設けるスペースがなかったため、南側の小屋の形態をそのままに、浴室棟として新築しています。

三好市落合集落には、晴耕雨読を含め8棟の空き家が茅葺き民家に復原され、宿泊施設として活用されています。





関係者のお話

三好市東祖谷の「落合集落」は日本の原風景が残る集落です。平成17年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、集落の景観を次世代に残す取り組みが進められてきました。

しかしながら、特定物件と呼ばれる古民家の何棟かは空き家になっており何らかの手立てをしなければ朽ち果てるのは時間の問題でした。

このような状況の中、平成20～21年度の「地方の元気再生事業」を契機に地域に残る多様な資源を活かし、観光を軸に据えた持続可能なまちづくりを進めていくための計画が立てられました。

その一つが、空き家の古民家を宿泊施設と

して活用することでした。

古民家の再生は、単純に建築当時の姿に戻すのではなく、この事業のプロデュースに当たったアレックス・カー氏の考えとして、「祖谷の山里暮らしを感じる伝統的な仕様や造りを生かす改修工事」、「現代人には厳し過ぎる山里暮らしを、いかに快適に優しく体験できるか、これを支援する改修工事」の2点が大きな特徴です。

宿泊施設を行うにあたっては現在4名のスタッフが業務に当たっています。この4名はU、Iターン30代の若者で、ホテルに例えるとフロントのような業務を担って頂いています。また、体験メニュー（集落の案内、食事体験）や掃除は地元の方に担ってもらって

おり、ケータリングは地元の業者が協力して頂いています。

27年度には8棟の古民家の宿がオープンしています。利用件数は795組、利用者数は2,351名です。このうち外国人の利用件数は12.8%となっております。この地域には事業が始まる前には宿泊施設が無かったのですが、現在は集落に多くの方が滞在するようになりました。

多くの方が訪れる環境になったお陰か、地域のお年寄りが当時の地域おこし協力隊を先生に英会話を習い始めました。また、集落内には予約制ですが食堂がオープンするなど地域の活力が高まった気がします。

三好市産業観光部観光課 中西 章さん

徳島県内の各市町村では、空き家のリフォームをはじめ、住宅取得補助や家賃補助などの支援策を展開しています。
以下にいくつかの市町村の支援策を示します。詳しくは各市町村の担当部署にお問い合わせください。

| | 住宅取得補助等 | 空き家リフォーム補助 | リフォーム補助 | 家賃補助 |
|-------|---------|------------|---------|------|
| 徳島市 | | | ● | |
| 鳴門市 | | ● | ● | |
| 小松島市 | | | | |
| 阿南市 | | ● | ● | |
| 吉野川市 | ● | | | ● |
| 阿波市 | | ● | ● | ● |
| 美馬市 | | ① | ● | ● |
| 三好市 | | ● | | |
| 勝浦町 | ● | ② | ● | ● |
| 上勝町 | ● | ③ | ● | |
| 佐那河内村 | ● | ● | ● | |
| 石井町 | | ④ | ● | ● |
| 神山町 | ● | ● | ● | |
| 那賀町 | | ● | ● | |
| 牟岐町 | | | ● | |
| 美波町 | | ● | ● | |
| 海陽町 | ● | ● | ● | |
| 松茂町 | | | | |
| 北島町 | | | ● | |
| 藍住町 | | | | |
| 板野町 | | | | |
| 上板町 | | | ● | |
| つるぎ町 | | | ● | |
| 東みよし町 | | | ● | |

お問い合わせ先

| 名称 | 電話番号 |
|----------------------|--------------|
| 「とくしま回帰」住宅対策総合支援センター | 088-666-3124 |
| 鳴門市商工政策課 | 088-684-1158 |
| 小松島市住宅課 | 0885-32-2120 |
| 阿南市定住促進課 | 0884-22-7404 |
| 吉野川市商工観光課 | 0883-22-2226 |
| 阿波市企画総務課 | 0883-36-8700 |
| 美馬市地方創生推進課 | 0883-52-8129 |
| 三好市地方創生推進課 | 0883-72-7607 |
| 勝浦町産業交流課 | 0885-42-1505 |
| 上勝町企画環境課 | 0885-46-0111 |
| 佐那河内村総務企画課 | 088-679-2113 |
| 石井町総合政策課 | 088-674-7503 |
| 神山町産業観光課 | 088-676-1118 |
| 那賀町まち・ひと・しごと戦略課 | 0884-62-1184 |
| 牟岐町総務課 | 0884-72-3413 |
| 美波町総務企画課 | 0884-77-3611 |
| 海陽町まち・みらい課 | 0884-73-4156 |
| 松茂町総務課 | 088-699-8710 |
| 北島町まちみらい課 | 088-698-9806 |
| 藍住町生活環境課 | 088-637-3116 |
| 板野町環境生活課 | 088-672-5987 |
| 上板町企画防災課 | 088-694-6824 |
| つるぎ町企画課 | 0883-62-3111 |
| 東みよし町企画課 | 0883-82-6302 |

①美馬市

移住者が「空き家情報」に登録されている空き家の改修を行う場合、補助対象工事費の1/2(上限20万円)を補助

②勝浦町

5年以上定住の見込みがあるなど一定の条件を満たす場合、新築工事費やリフォーム工事費の一部(上限100万円)を補助

③上勝町

空き家にU・I・Jターン者が入居し、5年以上定住するなど一定の条件を満たす場合、住宅改修費の1/2以内(上限100万円)を補助

④石井町

空き家を取得または賃借している人に、工事後半年以内に空き家に転居・転入すること、5年以上適切に管理をすることを条件に、リフォーム工事費用の1/2(移住者：上限50万円、町内在住者：上限30万円)を助成

平成29年1月時点



空き家活用のススメ

発行／「とくしま回帰」住宅対策総合支援センター
企画・編集／公益社団法人 徳島県建築士会
2017年3月